

# CASBEE®-建築(新築)

## 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版、CASBEE埼玉県2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v2.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)朝霞台計画	階数	地上7F
建設地	埼玉県朝霞市西原2丁目7-1	構造	RC造
用途地域	第一種中高層住居専用住宅	平均居住人員	140人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2021年3月 予定	評価の実施日	2019年8月19日
敷地面積	1,692㎡	作成者	中川敬一郎
建築面積	865㎡	確認日	2019年8月19日
延床面積	3,637㎡	確認者	中川敬一郎



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.4**

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 3.2**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.5

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.4

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.7

**LR のスコア = 3.4**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.8

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.9

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.3

3 設計上の配慮事項		
<b>総合</b> 限られた敷地の中に植栽豊かな緑地設けて、自然環境の保全に配慮した計画となっている。		<b>その他</b> 0
<b>Q1 室内環境</b> ・全面的にF☆☆☆☆の建材を採用し、室内空気質の健全化に配慮する。 ・複層ガラスを採用し、建物外皮の熱負荷抑制に配慮する。	<b>Q2 サービス性能</b> ・劣化等級3を満足し、躯体の長寿命化に配慮する。 ・耐用年数の長い配管材料を採用し、配管材の長寿命化に配慮する。	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> ・豊富な緑地を設け、温熱環境の向上に配慮する。
<b>LR1 エネルギー</b> ・適切な断熱を行い、建物外皮の熱負荷抑制に配慮する。 ・潜熱回収型の給湯器を採用し、省エネルギーに配慮する。 ・共用部の照明はすべてLEDを使用している。	<b>LR2 資源・マテリアル</b> ・全面的にノンフロン断熱材を採用し、有害物質を含む使用材料の使用回避に配慮する。	<b>LR3 敷地外環境</b> ・豊富な緑地を設け、温熱環境の向上に配慮する。 ・電気自動車の充電設備を設置し交通負荷抑制に配慮する。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

**CASBEE-建築(新築)2016年版、CAS (仮称)朝霞台計画**

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版、C ■評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v2.1)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート 実施設計段階						
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
<b>Q 建築物の環境品質</b>						<b>3.2</b>
<b>Q1 室内環境</b>			0.40		-	<b>3.5</b>
<b>1 音環境</b>		<b>2.0</b>	0.15	<b>3.2</b>	1.00	<b>3.0</b>
1.1 室内騒音レベル		<b>3.0</b>	0.50	<b>3.0</b>	0.50	
1.2 遮音		<b>1.0</b>	0.50	<b>3.4</b>	0.50	
1 開口部遮音性能		1.0	1.00	3.0	0.30	
2 界壁遮音性能				3.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)	<住居>Lr=40			5.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				3.0	0.20	
1.3 吸音						
<b>2 温熱環境</b>		<b>1.6</b>	0.35	<b>4.0</b>	1.00	<b>3.7</b>
2.1 室温制御		<b>2.2</b>	0.50	<b>4.0</b>	1.00	
1 室温		3.0	0.63	-	-	
2 外皮性能	<住居>断熱性能等級4を満足	1.0	0.38	4.0	1.00	
3 ゾーン別制御性						
2.2 湿度制御		<b>1.0</b>	0.20	-	-	
2.3 空調方式		1.0	0.30	-	-	
<b>3 光・視環境</b>		<b>2.0</b>	0.25	<b>3.7</b>	1.00	<b>3.5</b>
3.1 昼光利用		<b>1.8</b>	0.30	<b>3.4</b>	0.50	
1 昼光率	<住居>昼光率:3.0%	1.0	0.60	5.0	0.50	
2 方位別開口				1.0	0.30	
3 昼光利用設備		3.0	0.40	3.0	0.20	
3.2 グレア対策		<b>1.0</b>	0.30	<b>4.0</b>	0.50	
1 昼光制御	<住居>カーテンを設置、上階バルコニーにより庇を形成	1.0	1.00	4.0	1.00	
3.3 照度		<b>3.0</b>	0.15	-	-	
3.4 照明制御		3.0	0.25	-	-	
<b>4 空気質環境</b>		<b>3.6</b>	0.25	<b>3.3</b>	1.00	<b>3.3</b>
4.1 発生源対策		<b>4.0</b>	0.60	<b>4.0</b>	0.63	
1 化学汚染物質	<共用><住居>F☆☆☆☆の建材を全面的に採用	4.0	1.00	4.0	1.00	
4.2 換気		<b>3.0</b>	0.40	<b>2.3</b>	0.38	
1 換気量		3.0	0.50	3.0	0.33	
2 自然換気性能				1.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.50	3.0	0.33	
4.3 運用管理						
1 CO <sub>2</sub> の監視						
2 喫煙の制御						
<b>Q2 サービス性能</b>		-	0.30	-	-	<b>3.4</b>
<b>1 機能性</b>		<b>2.4</b>	0.40	<b>4.0</b>	1.00	<b>3.8</b>
1.1 機能性・使いやすさ		<b>3.0</b>	0.40	<b>5.0</b>	0.60	
1 広さ・収納性						
2 高度情報通信設備対応	<住居>各住戸で1Gbitクラスのブロードバンドが利用可能である			5.0	1.00	
3 バリアフリー計画		3.0	1.00			
1.2 心理性・快適性		<b>1.0</b>	0.30	<b>2.5</b>	0.40	
1 広さ感・景観	<住居>天井高:2.6m以上確保			4.0	0.50	
2 リフレッシュスペース						
3 内装計画		1.0	1.00	1.0	0.50	
1.3 維持管理		<b>3.0</b>	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計		3.0	0.50			
2 維持管理用機能の確保		3.0	0.50			
<b>2 耐用性・信頼性</b>		<b>3.0</b>	0.30	-	-	<b>3.0</b>
2.1 耐震・免震・制震・制振		<b>3.0</b>	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		3.0	0.80			
2 免震・制震・制振性能		3.0	0.20			
2.2 部品・部材の耐用年数		<b>3.3</b>	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数	劣化対策等級3を満足	5.0	0.20			
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		2.0	0.20			
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		2.0	0.10			
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10			
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	給水:ポリエチレン管(B)、排水:VP管(B)、通気:VP管(A) 2種類以上にB、かつEは不使用	5.0	0.20			
6 主要設備機器の更新必要間隔		2.0	0.20			
2.4 信頼性		<b>2.6</b>	0.20	-	-	
1 空調・換気設備		3.0	0.20			
2 給排水・衛生設備		1.0	0.20			
3 電気設備		3.0	0.20			
4 機械・配管支持方法		3.0	0.20			
5 通信・情報設備		3.0	0.20			

<b>3 対応性・更新性</b>		<b>3.0</b>	0.30	<b>3.4</b>	1.00	<b>3.3</b>
3.1 空間のゆとり			-	<b>3.8</b>	0.50	
1 階高のゆとり	階高:3.07m以上確保		-	5.0	0.60	
2 空間の形状・自由さ			-	2.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり			-	<b>3.0</b>	0.50	
3.3 設備の更新性		<b>3.0</b>	1.00		-	
1 空調配管の更新性		3.0	0.20		-	
2 給排水管の更新性		3.0	0.20		-	
3 電気配線の更新性		3.0	0.10		-	
4 通信配線の更新性		3.0	0.10		-	
5 設備機器の更新性		3.0	0.20		-	
6 バックアップスペースの確保		3.0	0.20		-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>		-	0.30	-	-	<b>2.7</b>
1 生物環境の保全と創出		<b>2.0</b>	0.30	-	-	<b>2.0</b>
2 まちなみ・景観への配慮		<b>3.0</b>	0.40	-	-	<b>3.0</b>
3 地域性・アメニティへの配慮		<b>3.0</b>	0.30	-	-	<b>3.0</b>
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		<b>3.0</b>	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上		<b>3.0</b>	0.50	-	-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>						<b>3.4</b>
<b>LR1 エネルギー</b>		-	0.40	-	-	<b>3.8</b>
1 建物外皮の熱負荷抑制	断熱性能等級4を満足	<b>4.0</b>	0.20	-	-	<b>4.0</b>
2 自然エネルギー利用		<b>3.0</b>	0.10	-	-	<b>3.0</b>
3 設備システムの高効率化	[BEI][BEIm] = 0.89	<b>4.2</b>	0.50	-	-	<b>4.2</b>
4 効率的運用		<b>3.0</b>	0.20	-	-	<b>3.0</b>
集合住宅以外の評価						
4.1 モニタリング		3.0	-		-	
4.2 運用管理体制		3.0	-		-	
集合住宅の評価		<b>3.0</b>	1.00		-	
4.1 モニタリング		3.0	0.50		-	
4.2 運用管理体制		3.0	0.50		-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>		-	0.30	-	-	<b>2.9</b>
1 水資源保護		<b>3.0</b>	0.20	-	-	<b>3.0</b>
1.1 節水		<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用		<b>3.0</b>	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無		3.0	1.00	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無		-	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減		<b>2.8</b>	0.60	-	-	<b>2.8</b>
2.1 材料使用量の削減		2.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材		2.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		3.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避		<b>3.3</b>	0.20	-	-	<b>3.3</b>
3.1 有害物質を含まない材料の使用		<b>3.0</b>	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避		<b>3.5</b>	0.70	-	-	
1 消火剤		-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)	全面的にノンフロンの断熱材を採用	4.0	0.50	-	-	
3 冷媒		3.0	0.50	-	-	
<b>LR3 敷地外環境</b>		-	0.30	-	-	<b>3.3</b>
1 地球温暖化への配慮	LCCO2(排出率):72%	<b>4.1</b>	0.33	-	-	<b>4.1</b>
2 地域環境への配慮		<b>2.9</b>	0.33	-	-	<b>2.9</b>
2.1 大気汚染防止		<b>3.0</b>	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善		<b>3.0</b>	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制		<b>2.7</b>	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制		2.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮		<b>3.1</b>	0.33	-	-	<b>3.1</b>
3.1 騒音・振動・悪臭の防止		<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1 騒音		3.0	1.00	-	-	
2 振動		-	-	-	-	
3 悪臭		-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制		<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1 風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制		3.0	-	-	-	
3 日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制		<b>3.7</b>	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	1)「光害対策ガイドライン」チェックシートの一部を満足 2)広告物照明はない	4.0	0.70	-	-	
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	

# CASBEE埼玉県 重点項目シート


■使用評価ソフトバージョン

CASBEE埼玉県2016年版

## 1 建物概要

建物名称	(仮称)朝霞台計画	BEE	1.4	BEEランク	★★★
------	-----------	-----	-----	--------	-----

## 2 重点項目の評価

ライフサイクルCO2の削減のスコア		緑の保全・創出のスコア			
4.1	+	2.6	=	6.7	
重点項目の各スコアの合計点					
がんばろう 6.0未満	良い 6.0以上	非常によい 6.8以上	すばらしい 8.0以上		
					

## 3 重点項目についての環境配慮概要

<b>(1) ライフサイクルCO2の削減</b>		スコア平均	4.1
<CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア>			
LR3 敷地外環境対策	1. 地球温暖化への配慮	スコア	4.1
<配慮した内容を記述>			
・線熱回収型給湯器や複層ガラスにより建物の省エネルギー性能に配慮する。			
<b>(2) 緑の保全・創出</b>		スコア平均	2.6
<CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア>			
Q3 室外環境(敷地内)	1. 生物環境の保全と創出	スコア	2.0
Q3 室外環境(敷地内)	3. 2 敷地内温熱環境の向上	スコア	3.0
LR3 敷地外環境	2. 2 温熱環境悪化の改善	スコア	3.0
<配慮した内容を記述>			
・豊富な緑地を設け、温熱環境の向上に配慮する。			

: 入力欄